

市内とはいえ緑区のことは余り知らない…。まずは、映像つながりから「こんな人 みつけっ」のご紹介から!

ここぞとも



藍色少年少女



去る7月1日、〈ユニコムプラザさがみ〉を会場にして行われた年に一度のこのまちの環境を考える集い『環境まつり』。そのステージ企画として、緑区の豊かな環境から誕生したふたつの映像作品を紹介するトークがありました。ひとつは、8月11日に相模女子大学グリーンホール・多目的ホールで上映される劇映画『藍色少年少女』。もうひとつは、緑区魅力づくり事業実行委員会が主催する『緑区ショートフィルムフェスティバル6th』大賞受賞作『青根っこ』。環境が人の暮らしを支え、暮らしから表現が生まれる——。当日のステージや舞台裏でお話を伺いました。

緑区藤野オール・ロケ 『藍色少年少女』 藤野の子どもたちが演じた

「保養活動」の実話をもとに倉田健次監督が脚本を書き下ろしたという『藍色少年少女』を観終えたとき、「さがみはらの映画ができた」という思いがしました。何処に行っても、何処の方に会っても『藍色少年少女』のまちに住んでいます」と自己紹介できる、清々しい映画が生まれたと思いました。

プロデューサーとして、この映画を誕生させたのが藤野在住の柳田ありすさんです。柳田さんは、ご自身が女優として活動するだけでなく、子どもたちの演技指導をライフワークに据えています。柳田さんは言います。「表現活動によって心と身体を解放することで子どもたちの居場所をつくりたい。そのなか



『環境まつり』でのステージの様子。左から白井由貴子さん、柳田ありすさん。そして、『藍色少年少女』に出演した藤野キッズシアターの3人の子どもたち。みんな映画撮影時と葉見違えるほど成長しています。

で子どもたちは生きていく力を培っていける」と。〈ふじのキッズシアター〉は、当初、親子サークルとして2000年に誕生しました。舞台活動などを行ううちに、ただ一度きりの公演ではなく、後に残る映像作品を作ろうということになり、倉田監督に脚本制作を依頼。映画経験のまったくない〈キッズシアター〉の子どもたちがチャレンジして出来上がったのがこの『藍色少年少女』なのです。

地域が支えた表現活動が子どもたちの成長を支える

テツオ役を演じた遠藤史人君(右写真)は、見違えるほど成長した姿と声変わりの始まった声で「映画は観るものだと思ってきた」と語り「でも、やってみたら、作る側に興味がわいて気になった」「演じてみたら褒められてうれしくなった」と、映画製作が彼の成長に大きく関わっているのを感じさせてくれました。

子どもたちがプロの大人の俳優たちとタッグを組んで演じたわけですが、それを支えたのがお母さんたちや地域の人たちです。栄養満点のケータリングは、俳優さんたちにとっても思い出深いものになったそうです。藤野の環境に支えられて地域の人間関係があり、そこから映画という表現が芽生えたことが、そのまま、このまちの希望ではないでしょうか。

Midori ward Short film Festival SAGAMIHARA



信頼を結んで生まれた貴重な映像記録

中央区に住む白井由貴さんが青根小学校の存在を知ったのは「たったひとりの入学式」のニュースだったそうです。同じまちに、新1年生ひとりという過疎の小学校がある、そんな過疎校の子どもたちの姿を撮りたくて撮影許可交渉。白井さんのお人柄もあるでしょう、3年かかった撮影のあいだに当初は疑い半分だった先生や地域の信頼を得られ、カメラの前でも子どもたちが自然に振舞うようになります。その結果、「青根っこ」の名前通り、地域ぐるみで子どもたちを見守る姿、そのなかで成長する子どもたちの姿が10分間の珠玉の映像となりました。地域で育み、表現を通じて成長していく姿は『藍色少年少女』のを見せてくれるものと同じです。



青根っこ

そして、残念なことではあるのですが、今年4月に消失した青根小学校の木造校舎の姿を記録する貴重な歴史映像ともなりました。 ※この映像、youtubeで観られます。「青根っこ」で検索ください。

大丈夫。このまちには、まだまだ出合いが、つながりが用意されている。廃校となった藤野町立篠原小学校(現・篠原の里) (2016年7月8日撮影)



特集 南区のひとたちがもっと知りたい藤野・相模湖のこと

全編、相模原市緑区の藤野で撮影された『藍色少年少女』。藍色の世界に映る山々、川、道、学校は、美しく幻想的であります。合併して政令都市となり、区政がひかれて6年が経過した現在でも、市の南端に位置する大野南地区にとって、緑区の北西部は、まだまだ遠いまちのようです。映画『藍色少年少女』にうつる自然を共有し、同じさがみはらに暮らすものとして、出会いつながれば、もっとこのまちを素敵にできるはず——。訪ねてみれば、南区のひとや暮らしにもドキドキできる出会いと、耳寄り情報がいっぱいなのでした。観光マップやグルメマップとも一味違う情報をみなさんに——。



いしやま そうこ
石山草子農園
ishiyama@sokonoen.com

この人は畑に立つとなんと素敵な笑顔になるのだろうか…写真を並べてみて改めてそう感じます。この笑顔は、石山草子さんのブログ「アレルギーでもおいしいごはん」やfacebookでも同じようにみつけることができます。草子さんは、30歳で食物アレルギーを発症。町田市で自分のためでもある米粉や発酵食品、野菜のカフェを運営していました。そうしているうちに同じ野菜でも違いがあることに気づいていきます。自分でつくってみよう！妹さんが「味噌・ソムリエ」をしていたことからご縁ができて、相模湖で畑を借りて野菜を作り始めたのが3年前。途中で畑を投げ出す人の多いなかで、貸し渋っていた地主さんを熱意で押し切り、何も知らないから、あの笑顔で地元の方に手取り足取り教えてもらっての始まりでした。この土地に生まれて育ち、耕した者でなければ教えられること。地形、風、天気の変化、水——そのあつかいは、地元の方にとっては、しごく当たり前のことでした。その当たり前のことこそが宝なのだ気づけたのは、草子さんが都会からやって来たよそ者だったせいかもしれません。地元の当たり前を同じように面白がってゲストが訪ねてくるようになりました。「草子さんが楽しそうだ



種をつなごう！津久井在来大豆
相模湖大豆の会
https://www.facebook.com/sagamikodaizu/
津久井地域の若手農家11人のポストお届け型宅配野菜
つくいさいの会
https://www.tsukuiysai.com/

から、私たちも楽しめそう」と。味噌づくり、醤油づくりがそのまま“観光イベント”となり、集客できることを知って、地元の方は、手にしている宝に気づくようになったのではないのでしょうか。そこには、地元の方と外部の方を笑顔で結ぶ草子さんのがんばりと人となりがあったように思います。いまや、農家登録し、2.2反の畑で40種類の野菜をつくっています。地元の方から借りた家屋を拠点に、同じように移住して就農した仲間もできました。病気がちだった昔がウソのよう。草子さん、生きていく力を蓄えた、と、ニッコリ。

から、私たちも楽しめそう」と。味噌づくり、醤油づくりがそのまま“観光イベント”となり、集客できることを知って、地元の方は、手にしている宝に気づくようになったのではないのでしょうか。そこには、地元の方と外部の方を笑顔で結ぶ草子さんのがんばりと人となりがあったように思います。いまや、農家登録し、2.2反の畑で40種類の野菜をつくっています。地元の方から借りた家屋を拠点に、同じように移住して就農した仲間もできました。病気がちだった昔がウソのよう。草子さん、生きていく力を蓄えた、と、ニッコリ。

イギリス発祥のトランジションタウンとして、日本認定1号が藤野です。トランジションタウンとは、「町ごと持続可能な暮らしに移行（トランジション）していこうという草の根的な市民活動です」。1996年から藤野にパーマ・カルチャー・センターができ、2004年にシュタイナー学園が移転してきたという精神的風土が培われてきたことが大きいそうです。

トランジション 藤野

自分たちの暮らしを自分たちの手で
そして、身の丈にあった暮らしを！

トランジション藤野の活動におけるキーワードは「脱依存」。遠いところからの管理や大きなものからの依存を抜け出て、自立していくこと。それも「ねばならぬ」ではなく「楽しい」から。リーダーを作らず、「やりたいことをやりたい人がやりたいただけやる」と。そのひとつが「萬（よろづ）」を単位とする地域通貨。毎月加入説明会を開き、今や利用者は400人にのぼっています。

一般社団法人
さがみ湖 森・モノづくり研究所
もりも
MORIMO
緑区と瀬 269
☎042-684-4729
https://morimo.amebaownd.com/



▲代表理事の淵上美紀子さん。淵上さんは相模湖の水質を守るために開発したエコ洗剤を製造・販売する純エコクラブの社長さん。手にするのは「木のかるた」ミウルの「森の積み木」「森のパズル」

～さがみはらの水とみどりを守って～ 「木」を活かして、子ども達に「木育」を！ 林業→搬出→製材→木工＝地域の宝物

武蔵野在住の淵上さんは、相模湖でエコ洗剤の仕事を始めて12年。地域に暮らしていないから余計に地域の大切なものが見えてきたのかも、と言います。相模湖は神奈川県の水がめ、その水質を守るには水源の森です。その森を守るために間伐材の木工品の企画・製作・販売をすることは必然だったとか。ミウルの「森の積み木」や「森のパズル」は県の〈やまなみグッズ〉の認定を受け、小さいお子さんからシニアの方にも好評です。市の協働提案事業として、小学校の机天板を間伐材で製作する取組みも3年前から始まって

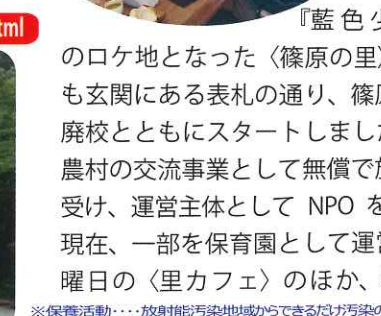
▼さがみはらの間伐材で床をフローリングにするならMORIMOにお問い合わせを！

～いちはやく 福島のごどもたちを藤野へ 保養活動「しのぼらんど」を開始～

廃校から始まった 地域の拠点 ♥ 篠原の里

高齢者サロン、フラの教室、こどもダンス教室などなど、拠点となって地域の暮らしとつながりをさえています。そのつながりが3.11後、いちはやく保養活動への取組みを実現させました。2011年8月から、延べ11回289名を福島から〈保養〉に招いています。「何かをしてあげたい、じゃなくて、一緒にこどもたちを育てていきたいという気持ちで始めた」と佐藤泰子さん。地域資産を活用した暮らしがあってこそその活動は、あくまで自然体なのでした。

『藍色少年少女』のロケ地となった〈篠原の里〉は、いまも玄関にある表札の通り、篠原小学校の廃校とともにスタートしました。都市と農村の交流事業として無償で施設提供を受け、運営主体としてNPOを立ち上げ、現在、一部を保育園として運営、毎週金曜日の〈里カフェ〉のほか、料理教室、



♥ 宿泊できて、さまざまな施設利用できます！
自炊でシャワーのみとなりますが、近くには温泉、仕出しをお願いすることもできます。東海自然歩道、回り舞台のある大石神社、縄文遺跡、ホテルにギフチョウ…。何よりも、小学校の雰囲気を残す施設内の雰囲気！合宿研修におススメ。大人宿泊ひとり3200円。詳しくはHPで。
http://www.ops.dti.ne.jp/~shinoba/application2006.html



▼地域通貨「よろづや」は、このような通帳方式。単位は円でなく「萬」。スタートは「0萬」から。モノやコトの取引を記憶していきます。なので、メンバー間の「萬」の合計は必ず「0」に。「0」であっても、取引は「共生」の記録になるのです。

～湖畔に立つ 夢のつまった会社～
舞台衣裳レンタル
(株)アトリエヨシノ
緑区と瀬 377-3 ☎042-682-7110
http://www.atelier-yoshino.com

パレエ教室に通う日本のパレエ人口は約40万人と言われています。その発表会や公演等へパレエ衣裳をレンタル提供し、シェア70%を誇るパレエ衣裳レンタル会社が相模湖畔にあります。5階建ての社屋に働く165名の内、男性は6名。今をときめく、女性が活躍している企業です。吉野社長は、元々はアパレルデザイナー。子育てのために相模湖に移り住み、パレエを教えている先生方が衣裳に困っていることを聞いて、オリジナルのパレエ衣裳をデザイン。アパレルの経験を活かした、古典的ではない、ポップで斬新なデザインが人気となり、急成長を遂げることになりました。また、急成長の裏には、スタッフ一人ひとりの、わが子や孫の発表会を見守るようなまなざしでの作業や、女性ならではの細かな気遣いがあったからではないかとスタッフは語ります。社内を見学すれば、夢のある美しい衣裳が所狭しと並び、細やかな配慮に満ちた展示や掲示に、なるほどと感心しました。アトリエヨシノさんの活躍は、パレエ愛好者の裾野を広げただけでなく、相模湖畔でのイベントに特別協賛・衣裳提供するなど、パレエのすばらしさを伝えるための活動も続けています。(4頁を参照)パレエスタジオもある会社見学は、15人以上のグループで申し込み可。イベントダイジェスト・会社紹介のDVD上映や、衣裳倉庫を見学できます。



▲相模湖を社屋5階の窓からのぞく。細かな針仕事をする作業場の窓からも湖上を見渡すことができます。相模湖の自然に囲まれて、夢いっぱいの衣裳が80,000着以上、生みだされてきました。

※保養活動…放射能汚染地域からできる低汚染の少ない地域への移住地をすることで心身ともリフレッシュする機会を提供しようとする活動のこと。

いのちは量りあうものではなく、捧げあうもの このまちの市民として、祈りを捧げ、怖じることなくつながるために



津久井やまゆり園にて犠牲となられたみなさんに心からお悔やみ申し上げます。お身体に、また、心に傷を負われた入所者のみなさま、職員の方々の一日も早い回復をお祈り申し上げます。

偶然のことではありますが、わたしたちは、映画『藍色少年少女』との出会いをきっかけに、大野南地区から、同じ市内でありながらよく知らない緑区を訪ね、特集記事にまとめようとしておりました。地域の活動に取り組む方を訪ね歩き、やまゆり園近くを歩き来していたのです。

今回取材したどこよりも、地域福祉の拠点であるやまゆり園は、大野南のわたしたちにとっても身近でした。職員の方に救命講習の講師にお見えいただいたこともあり、周りに

もご縁の方がいます。本当につらく、悲しくてなりません。

そして――。
この事件は、このまちに大きな傷みとともに問いを与えました。

いのちとは何か。
生きるとは何か。
共にあるとはどういうことか、と。
突きつけられた問いを見つめれば、元々、わたしたち一人ひとりが真摯に答えるべき問いでした。
生きとし生ける者に「いなくていいいのち」など、ありません。
あらゆるいのちとの関係性こそが生きることだからです。
その関係性はしなやかに互いを支え合うものでなければなりません。

わたしたちは「まちづくり」をテ-

マに「ここでずっと暮らしたい」と思える「ひと」と「まち」をつくるために集まりました。互いを理解し認め合い、その関係性への想像力を発揮することが「ひと」をつくり「まち」をつくりまします。

本当のまちをつくりましょう。
他者の困難に手を差し伸べられるわたしたちになりましょう。
障がいの有無なく、怖じることなくまちに出てください。
そして、つながりましょう。

つながった証しの風景が現れ、記憶が重なるとき、わたしたちは、この悲惨を乗り越えられるはずです。

ここに、さらに、まちづくりを呼びかけ、花と束ねて捧げます。

2016年8月
NPO法人ここずっと
理事長 田嶋いづみ



Information

ここdeシネマ 第5回

2016年11月19日(土)
PM6:30 上映開始予定

会場:相模女子大学グリーンホール・多目的ホール

松井久子 監督作品 ドキュメンタリー映画

「不思議なクニの憲法 完全版」

※今年度の参院選映像を加えた完全版による上映
※わたしたちの手で字幕・音声ガイドを制作

<ここdeシネマ>は“まちづくり”を応援します。
●市民活動・イベントの告知、情報フライヤーお持ちください。お客様が自由にお取りいただけるようにします。●事業主の皆さん、お店情報コーナーを用意します。チラシ置きします。●映画好きのみなさん、オフ会企画もどうぞ。●字幕・音声ガイド制作スタッフを募っています。エクセルが使えれば参加できますよ!

『フリー情報紙 ここずたうん』 No.13

[発行日] 2016年8月



[発行者] NPO法人 ここずっと

〒252-0303 相模大野9-6-18
ここずたうん編集室

ご意見、投稿、記者志望者は
ここずたうん編集室へ

【TEL】042-745-0676 【FAX】042-742-0447

【E-mail】info@cocozutto.jp

クリップ・ボード

さがみ湖

野外バレエフェスティバル 2016

会場●神奈川県立相模湖公園特設ステージ



9月18日(日) 開演 18:00 終了 20:30

指定S席 4,500円 A席 3,500円(税込)

演目●島崎徹オリジナル作品、「Fairies」白雪姫・ピノキオ

9月19日(月・祝) 開演 18:30 終了 21:00

指定S席 6,500円 A席 5,500円(税込)

演目●「くるみ割り人形」

※両日ともお得なファミリー席が
用意されています。(芝生席・4名まで)

主催●さがみ湖野外フェスティバル実行委員会

<http://www.sagamiko-ballet.com>

※3頁にてご紹介しましたアトリエヨシノさんが特別協賛しています。

上記イベントにあわせて、県立相模湖交流センターでもアトリエヨシノ衣裳展示、プレゼント抽選会、音楽イベントが開催されます。

芸術の秋を相模湖で楽しまれてはいかがでしょうか?

NPO法人ここずっとは

市民相談窓口を開いています。相談は☎042-745-0676へ。